



基調講演とパネルディスカッションの様子

## 公共交通の多面的な評価に向けて

### ～クロスセクター効果の算出とその実装に向けた課題～

公共交通研究小研究会では、「公共交通の多面的な評価に向けて ～クロスセクター効果の算出とその実装に向けた課題～」をテーマに、会場とオンライン併用にて公開シンポジウムを開催しました。参加者は108名（会場21名，オンライン87名）でした。まず本テーマについて、一般社団法人グローバル交流推進機構理事長の土井勉氏より基調講演をいただきました。続くパネルディスカッションでは、モデレータを川本義海（福井大学 教授）として、パネリストの（株）日本海コンサルタント副本部長兼室長の塩土圭介氏、豊橋技術科学大学准教授の松尾幸二郎氏、川本義海（前出）よりクロスセクター効果（CES）の算出事例が紹介された。土井勉氏（前出）よりコメントを頂くとともに、会場とオンライン参加者を交えた質疑応答がなされました。費用便益分析（CBA）との違い、また算出結果のプラスマイナスに囚われ過ぎることなく、公共交通の質的な改善をめざした有益な使い方が求められることなど、公共交通の多面的な価値の評価の当たっての注意点とその意義、活用展開に向けた課題について情報共有することができ、参加者の関心の高さを伺えるものとなりました。 【報告者】福井大学 川本義海